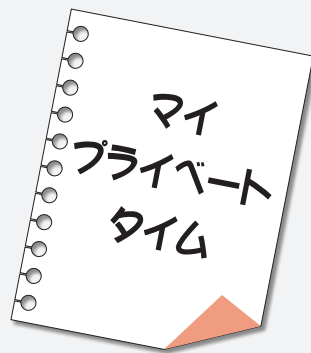


剣道の訓えを市政に



かすがい 春日井市長(愛知県) **伊藤 太**
Hutoshi Ito

春日井のまち

春日井市は、昭和18年6月1日、4町村が合併し誕生しました。当時の人口は5万3000人余りでしたが、人口は今でも増え続けており、今年の4月には人口31万人となりました。

本市は、人口急増が始まった昭和40年代から土地区画整理を主体とする計画的なまちづくりを努めてまいりました。また、温暖な気候、JR中央線、名鉄小牧線などの公共交通をはじめ、東名高速道路、中央自動車道、東名阪自動車道など



つながりテーマとして開催された「春日井市制70周年記念式典」

の交通インフラに恵まれていることから、豊かな自然環境と良好な都市環境が調和した都市として発展してきました。今では、市民の90%以上の方から、「住みたい・住み続けたい・住んで良かった」との評価をいただいております。

春日井の力。それは住み良い環境とともに地域を支える市民一人一人の力であり、各種団体の力です。本市では、文化やスポーツなどの分野において全国レベルで多くの方が活躍される一方、それぞれの地域で町内会や商店街を中心に高齢者から子どもまで一緒に参加して芸能発表会や盆踊り、運動会、餅つき大会など、多くの行事が活発に行われています。さらに、安全安心をはじめ、さまざまな分野で自助・共助の働きが着実に広がっております。

昨年、市制70周年を迎え、「つながり」をテーマに文化やスポーツ、健康、防災、経済振興など実に多くの記念事業を実施いたしました。すべての事業にわたり、計画された人々も参加された人々も、誰もが生き生きと躍動され、素晴らしい感動と成果を収めることができました。まさに春日井の市民力が

目に見える形で発揮されました。

春日井ブランドを全国へ

本市は、「書のまち」「サボテンのまち」「剣道のまち」であります。現在では、本市に縁のある文化スポーツ大使1名と12組13名の広報大使が春日井の魅力を市内外に大いに発信してくださっています。

「書のまち春日井」は、平安時代の三跡の一人、小野道風の誕生伝説地であり、古くから書道文化が根付いております。昭和11年から始まり、戦時中も中断することなく続いている県下児童生徒席上揮毫大会や道風の偉業を讃える全国公募の道風展などが毎年開催さ



全国高等学校剣道選抜大会の開催地でもある「春日井市」

れているほか、書に親しむため小学校には書道科の授業もあります。また、書専門の美術館である道風記念館では平安時代からの貴重な作品約2600点を収蔵・展示しております。

「サボテンのまち春日井」は、サボテンを種から苗に育てる実生栽培の日本の産地です。全国のサボテンの多くは春日井生まれと言っても過言ではありません。今では観賞用だけでなく、食用サボテンの栄養価や薬事効果にも注目したさまざまな商品や飲食メニューも開発されています。

「剣道のまち春日井」は、剣道の高段者



日本剣道形を披露する筆者(右)

や愛好家が剣道を通して青少年の健全育成に力を注いできた土地柄であり、小中学校の体育館や地域にある道場で子どもから大人まで剣道に親しんでいます。そして、インターハイと並ぶ全国高等学校剣道選抜大会は第1回から、また全日本女子学生剣道優勝大会も春日井市総合体育館で開催されており、全国の高校生、女子学生の目標でありあこがれの聖地・春日井でもあります。これらの大会を官民一体となって応援をしております。

私と剣道

私と剣道とのかかわりは、中学1年で始め、本格的には20代半ばの時、今は亡き父が「誠武館」という剣道場をつくり地域の小学生や中学生に剣道を教え始めたのを手伝うようになってからであります。

そのころ、私は会社員でしたが、休日に仕事を離れ子どもたちと竹刀を振る剣道が何よりの楽しみとなり、昇段するに従って剣道の魅力に取りつかれていきました。当時、本市には範士八段の先生が3名いらっしやあって、剣道の練習だけでなく、練習が終わった後やご自宅に伺ったときにお聞きするお話は人生の訓えそのものでした。「打とうと思うのではなく、ありがとうございますという気持ち

で打たせていただくのだ」「子どもの素直な技に今でも教えられる」。思い出せば、先生たちのお言葉が走馬灯のようによみがえります。

市長になり公務に忙殺される中、剣道が唯一の気分転換でしたが、あるとき勧めもあつて七段への昇段に挑戦しようと決心しました。心構えから呼吸の仕方、足さばきに始まり技の練習などすべて基礎から反復練習しました。2年かかり5回目の挑戦で合格させていただきましたが、この経験は人生において、また、市長という立場にとって改めて訓えられ生かされることばかりとなっています。

剣道は、市長という服を脱いで時間を過ごすことができます。子どもたちのきらした目、うれしそうな笑顔、さらに「剣道の訓え」は、市政を預かる立場においても、毎日の生活においても私の貴重な財産であります。これからも時間の許す限り剣道と触れ合って行きたいと思っております。

剣道には多くの訓えがありますが、いろいろな機会に私が使わせていただいている言葉を紹介して「剣道の訓えを市政に」に代えさせていただきます。

「守・破・離」「以不変応万変」「四戒・驚・懼・疑・惑」「三美・三強」「立ち止まり振り返り今日も行く一筋の道」。